

新潟県

# 公民館月報 11

平成13年11月号 通巻第585号

5.11.10  
LASPEC



表紙 「個性と創造性を  
はぐくむ白根学習館」  
(白根市中央公民館)

特集 第41回社会教育研究全国集会  
—越佐集会 2001—

視点 夏の思い出  
ひろば 西山々佳便り「山男と教育」を再読して  
サークル交流 炎の会(新津市中央公民館)  
藤扇佳(小出町公民館)  
素顔拝見 横山泰巳さん(五泉市)  
知野利和さん(小須戸町)

# 第24回全国公民館研究集会

## 兼第42回関東申信越静公民館研究大会

平成 13・10/18(木)・19(金) 長野市で開催される

### 『21世紀、くらし豊かな地域社会をめざして』

#### 生涯学習時代に公民館の果たす役割は

みずずかる信濃の国、長野冬季オリンピックのメイン会場であったビッグハットアリーナを主会場に、第24回全国公民館研究集会が二、六〇〇余名の参加を得て、盛大に開催された。この大会は、第42回関東プロ大会を

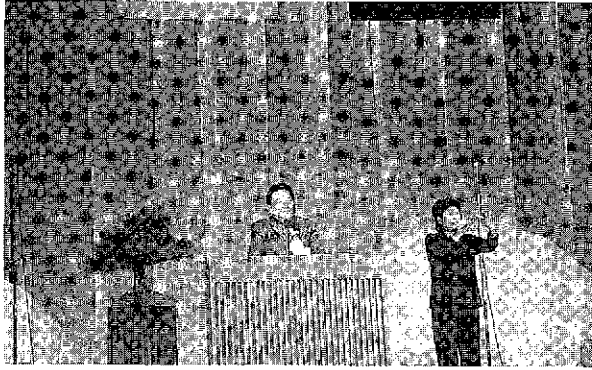
兼ねていることから、次期開催県である本県からも一〇八名の多数の参加があった。

今回の大会テーマは「21世紀くらし豊かな地域社会をめざして」―生涯学習時代に果たす役割は―と設定し、大会初日には十三分科会に別れてそれぞれ熱心な討議が展開された。

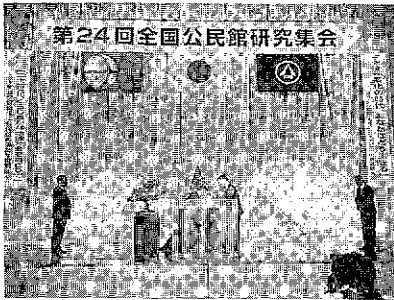
本県からは、第三分科会「青少年の学習」の助言者として新潟大学齋藤

勉教授が指導され、第五分科会「男女共生と成人の学習」の司会者を新潟県小野庸子教育長が担当、また「公民館における女性問題」に関する学習機会の提供について、長岡市中央公民館関和代主任が適切な資料に基づいて発表された。当会今井昭友会長は、第十分科会「地域づくり学習」の運営責任者を全公連理事の立場で担当された。

大会第二日目の記念講演は、「変化の時代、あなたは どう生きるか」と題して、



△ご祝辞 田中康夫長野県知事



△関プロ大会旗、今井会長へ



△本県担当 第5分科会

### 〔上公連、公運審委員・職員合同研修会開催〕

#### 「地域や家庭の教育力を高める

#### 公民館の役割」

◇平成 13・10・16(火) 102名の参加

◇於 板倉町公民館

午前中は事例発表で、(1)新井市社会教育課、長谷川明寿派遣社教主事から「子縁人材活動制度」(2)妙高高原町公民館上野伸一社教委員長から「家庭の教育力を高める工夫」(3)上越市立公民館渡邊秋彦係員から「感性のレストラン」と題して、具体的な発表がなされた。

午後にはアトラクション、①大正琴演奏②高野しげさ踊り③トランポピクス等の公演がなされた。

最後は「地域や家庭の教育力を高める公民館の役割」と題して、ホコ自習館での実践を踏まえ、関根学園高校勝山一義校長先生の講演でしめくくられた。

◇全公連創立50周年記念文部科学大臣表彰  
被表彰者に

梶 瑤子様

(元新潟市京地区公民館長)

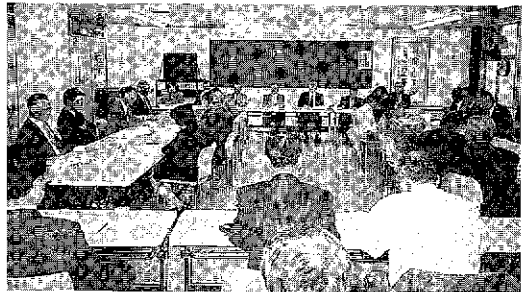
11月16日の記念式典で受賞予定

アサヒビル株式会社中條高徳名誉顧問が明治以降の歴史の経緯を踏まえて、心の問題、青少年の生き方等について訴えられたのが印象に残った。

全体会では、全公連松下誠会長の主催者あいさつ、遠山敦子文部科学大臣(代理、大臣官房寺脇研審議官)、田中康夫長野県知事の来賓祝辞、地元塚田佐長野市長(代理、市川衛助役)の歓迎のあいさつでしめくくられた。

とくに寺脇審議官と田中知事が、ノー原稿で持論を堂々と述べられたのが印象的であった。

### 第43回関プロ大会 第2回準備委員会開催される



◇平成13・10・10 39名出席  
◇於、新潟市中央公民館

いよいよ第43回関プロ大会の具体的な準備始動となった。

1. 経過報告  
今までの具体的な準備経緯について鈴木事務局長から報告がなされた。
2. 素案検討協議  
六日町公民館笠原館長を議長に選任、以下の具体的な項目について検討・協議した。  
(1) 大会テーマ } 原案一部修正  
(2) 分科会の設定 }  
(3) 記念講演講師について  
理事会で内定したとおり、国学院大学教授で県立歴史博物館館長小林達雄氏を選任・了承
- (4) 準備組織について  
最も簡略で動き易い茨城大会の組織を参考に、多少手直しを加えて組織図を作成することとした。
- (5) 事務局体制については、主管の新潟市公民館連絡協議会に加えて、豊浦町公民館からも参画してもらうこととなる。
- (6) 大会予算について  
原案どおり県・豊浦町への助成をお願いすることとなった。  
以上の概要案を、関プロ理事会へ提案していくこととなった。

## 視 点

執筆依頼  
に顔写真一  
葉とあるが、  
敢えてこの  
写真を載せ  
てもらおう。  
新潟県少年  
自然の家  
(中条町) でキャンプ  
に来たお子様を抱っこ。  
この子が起きるまで次  
のゲームを中断した。

### 夏の思い出

また二〇〇〇年八月  
を見ながら、陸はアイ  
スを食べたり遊んだり  
していた。観覧車やS  
L等に乗りはしゃいで  
いた陸は、暑さと疲れ  
から私の腕の中で寝て  
しまった。日陰の涼し

### 高橋 正美

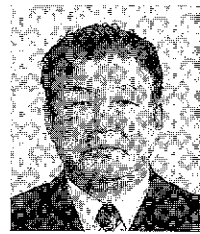
が近づいた。私達の居  
場所を見つげようとP  
HSを鳴らすが、雑踏  
と騒音でその音を聞き  
漏らす。放送で呼び出  
されようやく気づく。  
みんなと合流した時、

寝顔を見ていると起こ  
したくない。どの位  
経ったのか、妻達は乗  
物で楽しみ、帰る時間  
い所で腰を降ろし眼を  
覚ますまで抱いてい  
た。腕は痛く痺れてき  
たがじっと我慢した。

大目玉をくらう。娘は  
「お父さんにPHSを  
持たせても役に立たな  
いね」と。  
二件とも夏の思い出  
として忘れることはな  
い。子どもが寝ている  
呼吸の動きを直に感じ  
ながら、人間はこの寝  
顔のように無心に素直  
に生きなければならな  
い。この子のような年  
輪に戻れないが努力だ  
けはしたい。けれども小  
軒がうるさいと妻に小  
言をいわれるようでは。  
(石山地区公民館運営  
審議会委員・使用団体  
連絡協議会会長)

### 西山々荘便り「山男と教育」を再読して

吉田町社会教育委員 渡 邊 健



近頃 めっきり 大きくなった志 津子は、 脚腰も丈

夫になり服など小学三、四年の  
ものでないと間にあわない、  
七キロの山坂道を平気で登  
り下りする様になり、町で  
出る機会も多くなった。そ  
れに比例して私は苦痛を感  
ずる様になってくるのは自  
然の法則とは申せ何となく  
寂しいものである。(中略)

## る ば

田舎者と云われ、ウスノ  
口と笑われてもよいから、  
ただ一つだけ、正しく味の  
ある人間性を子供の魂の中  
に育ててゆきたいと思っ  
ている。(後略) 以上。

## ひ

いろいろな事を覚えてくる。そ  
れは良い事でもあり悪いこ  
ともあった。そして疑問  
な点は何度でもうるさいほ  
どに聞きかえかえす。ツバ  
メは志津子を見ても驚かな  
いのに、スズメはなぜすぐに  
げるの、スズメの頭に茶色の丸  
いのがついているのはなぜか。  
あれは帽子だ。なぜ帽子をかぶ  
るの。安全帽子だよ。なぜ安全  
帽はスズメだけかぶるの。ほか  
の鳥にいじめられないように。  
なぜスズメはほかの鳥にいじめ  
られるの。私は遂にあきれて、  
ママに聞いてこいと云う。台所

大人がどうして未熟な子どもを  
育てることが出来るだろうか。  
現代における教育の悲劇はこの  
ように「幼児化した大人」たち  
が子どもを育てている点にあり、  
従ってますます人間は幼児化し  
ていくのである…。  
人間は「ゆり籠から墓場まで」  
育心を心がけ意識して生活を送  
らねばならないと思う。

# 研究全国集会概要報告

## 2001—

・26日(日)・27日(月) 800人参加  
会館・聖籠町立聖籠中学校



△第5 課題別集会討議スナップ

学校教育と社会教育は、本来子どもが育つ地域の教育現実に立って行われるはずである。しかし、実際は、学校教育をとおして地域へ発信するものがないために、地域から対応するものもないのが現状である。

今回の提案の内容は、学校の森づくりによる「いのち」の「つながり」を活かす学校経営である。資料として「子どもの夢が育つプロジェクト」作成のビデオを使った。これは、「学校の森」づくりをとおして、長岡市の川崎小学校と十日町市の南中学校の子ども、教師、親、住民が、生き生きしている実践例である。森をつくってから親たちは、心の中に幼い頃の体験が甦ってきた。そして、人は地域の自然、文化、歴史との「いのち」の「つながり」の中で生きていくこと、そしてその根底には地域を支える潜在力、「潜在自然植生の森」があることに気づいた。今年に入って、これらの学校には、それぞれ「森のいのち」を「地域のいのち」につなげる「森の会」が、自発的に生まれた。

多くの共感者が現れた。県内

## 第2 課題別集会概況 学校を核とした新しい地域づくり—新潟県の事例から—

報告者 佐川 通

では、都市部だけではなく近くに自然豊かな環境のある地域にも「学校の森」が生まれた。三条市には「病院の森」が、長岡市には「平和の森」が生まれた。また県外にも「森と牧場のある学校」(春秋社)の著書によって広がった。

国際的な教育学者J・ミラー博士が「川崎の森」を訪れたのきっかけに、森の教育はホリステイックな教育の国際的な潮流とつながった。韓国の幼稚園長、教育学者、森林学者が相次いで本県の森のある学校を訪れ、いま韓国の教育改革は、生命の森づくり国民運動に進展している。

8月末に、山之内義一郎著「森をつくった校長」(春秋社)が出版された。新潟県では、総合政策部など三課と畑にいがた緑の百年物語推進委員会の連名で市町村教育長宛に参考図書として推薦した。全国では、沖繩、福岡から台風のように反響が広がっている。

会場からは、次のような気づきが「ふり返りシート」に寄せられた。

○森は、日本の自然に則した生きた環境。子どもの学びのためには、地域の自然や文化が必要である。「学校の森」づくりをとおして、教師、子ども、親、住民の間に、学び合ひ、育ち合ひ、交流し合ひ「つながり」が生まれた。また、大人が価値観を変えることで子どもが子どもらしく生き生きと育ち、地域が活性化するのだと思った。

○ビデオによる実践の紹介も効果的だった。ビデオを見て感動した。学生にも見せたいので、このビデオを入手できないか(大学教授)。子どものいきいきとした姿や愛着心が感じられた(東京)。「感じる」と「体験すること」の大切さを感じた。正に「センスオブワンダー」レイチェルカーソンの著書にある「教えることはさほど大切なことではなく、感じる力、感じ取る力が大切」だということばを思いだした(横浜)。

今後とも、私たちと連絡を

市、茨城県玉里村、日野市、三島市から寄せられた。

今回の提案をとおして、あらためて感じたことは、かつてのように、「知識教育は学校で、情操教育は家庭や地域で」という時代は終わってしまった。これからは、持続可能な社会を創出するために、社会教育と学校教育は連携して、「森のいのち」の「つながり」を活かす観点から、共に教育改革に取り組まなければならないと、強く思った。

最後にもう一つの会場からいただいた意見を紹介します。「改めて森づくりの凄さを知った。学校内に森をつくることで、子どもたちに自然と触れさせ、新たな発見を手助けする。これは住民にもあてはまる。これは十分に学校教育と社会教育に貢献できる。『学校の森づくり』が全国に広がることを期待したい。」

今後、学校現場から、どんな発信していきたいと考えている。



とって実践を進めたいという希望が、西東京市、福生市、都留市、横浜市、新潟市、三島市から寄せられた。



# 特集 第41回社会教育

## —越佐集会

・日時 平成13年8月25日(土)  
 ・会場 北蒲原郡聖籠町町民

### △第17分科会討議スナップ

全体で22分科会が設定された。分科会全体の構成は今日の社会をどうとらえるか、その切り口でもある。そしてまた、各分科会への主体的な参加検討を通して、日々の実践や問題意識は限定された地域だけでなく全国の動向とどう合流するものなのか、時代と場所を超えて再確認されるという意味をもっている。

各分科会の主題設定や進め方については、これまでの全国研究集会から積み重ねてきたものが殆んどである。とはいっても、越佐集会開催にあたり組織された現地実行委員会の世話人と全国世話人とで、新潟県内と全国からの実践事例を掘り起こすと共に、それら事例を基に分科会での議論をどう深めてゆかかは分科会毎に世話人の間で検討が加えられてきた。そうした経緯を振り返れば、参加者総数の多い少ないだけでなく、開催地である新潟の問題意識や主体性かなり確保されたことにも、本研究集会の肯定的な評価がされてよいと思われる。

各分科会での事例報告は、当日持ち込まれたレポートも含めて70本であったが、その内59本

## 分科会の概要報告

実行委員 北村弘文

が県内からのものであった。しかも20分科会のすべてにわたって県内からの事例報告が行われた。このこと一つをみても、公的社會教育に限らず新潟における社會教育の実践は、全国の動向と照らしても、これまで豊かな取組みを蓄積してきたと言えるのではないだろうか。

しかも本集会の特徴の一つは、過去県下で開催された社會教育の大会とは異なり、市民や学生そして研究者の参加が多いことである。分科会全体の参加者は七百三十名にのぼるが、そのうち職員以外の参加者は約65%を占めている。市民主体の集会の特質は、市民実践者の事例報告が多いことにもうかがえる。分科会での事例報告70本の半数を超える36本が市民実践者からのものであった。

各分科会の討議内容について言及する紙幅はないが、参加者一覧表から次の点を指摘しておきたい。表中所屬が職員として区分される中に、健康福祉行政や農林業行政などに関する職員も含めてあることは割り引かねば

ならないが、分科会への参加者の所屬分布を一瞥した時、社會教育職員と市民との間で関心のずれを指摘できるかもしれない。

例えば、第一分科会では子どもの人権保障・権利擁護、地域と学校との関係再編の動向、家庭教育支援の拡大等、近年の社會の動きに注目しながら、子育て支援の当面する課題について話し合いが行われた。

この分科会では、今年の二月からプレセミナーを実施してきたこともあって、市民参加者のうち実に三割近くがこの分科会へ参加している。子どもの人権や子育て支援の取組みへの市民の関心の高さとともに、この分野における市民活動の広がりがうかがわれる。果たして本分科会ではプレセミナーの中で確認された分野を超えた協同が、主眼となつたが、社會教育分野に限らず、社會福祉、司法、地域活動、NPOなどの実践に関する人たちの幅広い交流となつた。

逆に職員の関心を集めながらも市民の関心が比較的薄かったのは第十二分科会である。これ

は第十一分科会との違いが明確でないことにも一因があると思われるが、地方分権へ向けた行政の施策展開のプロセスや内容が住民自治の力量と深く関り、しかも近代日本の行政の転換をも促す問題だけに、これをどう取り上げるかは、公的社會教育にとっても真価が問われるテーマであるが、市民の関心呼び起こすまでに至っていないのではなにかと懸念される。この問題に関しては、むしろ市民自身の問題として引き寄せられるような、職員からのアプローチが実践面でも必要なのかもしれない。

さて、今回の越佐集会は、会場が下越地区内であっただけでなく、事例もいささか下越地区内での実践に偏った傾向がある。県内の各地で市民のあるいは公民館職員などの地道な実践が日々重ねられている。今後、こうした取組みの一つ一つを丹念に掘り起こし、多くの人たちの共有財産として確認し合い、さらに実践を深め広げてゆくことが、今回の研究集会の残した課題であることを最後に分科会のもととめる。

は第十一分科会との違いが明確でないことにも一因があると思われるが、地方分権へ向けた行政の施策展開のプロセスや内容が住民自治の力量と深く関り、しかも近代日本の行政の転換をも促す問題だけに、これをどう取り上げるかは、公的社會教育にとっても真価が問われるテーマであるが、市民の関心呼び起こすまでに至っていないのではなにかと懸念される。この問題に関しては、むしろ市民自身の問題として引き寄せられるような、職員からのアプローチが実践面でも必要なのかもしれない。



△分科会場の聖籠中学校

現地実行委員長に伊藤文吉北方文化博物館長氏にお願いしたところ、「私は社会教育の専門家でないけど、社会という英語の語源はラテン語で、仲間から転移したものだ。社会教育で仲間づくりを進めるのならお手伝いしよう」と期待をこめて引き受けていただきました。

そして、一年前、新潟県社会

△渡邊聖籠町長の歓迎あいさつ

この集會は社会教育推進全国協議会(以下、社全協)と現地実行委員会が主催して開催しています。この社全協は会員制の団体で、市民・学生・研究者・社会教育関係職員で組織され、社会教育に関心の有る方なら、だれでも入会できます。

この社全協と主催して、21世紀最初の集會を新潟で開催しよう、と決めたのは第39回山梨県石和集會でした。その年の11月に日本海の荒波を間近にする山北町の民宿で、二年後に新潟で集會を開催決定する集いを行いました、具体的な準備に入りました。

集會は毎回八月の最後の土、月、月に開催され、一日目は、第一全体会と近々のテーマを討議する課題別集會。二日目は丸一日を分科会。三日目は、第二全体会と次期開催地への引き継ぎセレモニーです。

新潟県、新潟県公民館連合会始め諸団体から後援をいただ

教育主事等研究会が下越で開催されました。内容は主事が実践発表し、新聞論説委員の記念講演でした。その委員は「いまだき、こんな古いスタイルの研修会では時代に遅れる。もっと多士済済の参加がないと。特に社会教育では」と激励を。なぜなら、この集會には一般市民、学生、研究者、社会教育関係職員の参加があり、正に多士済済の集會ですから、委員がしめす方向に間違いがないと意を強くさせられました。

私たちが現地実行委員会は、新潟は全国でも広い面積があり、三つの越と佐渡にはそれぞれの文化があり、集會参加者を知っていた以上、県内の活動がつかぬことを大切に実践レポートの掘り起こしに努めました。

新潟県、新潟県公民館連合会始め諸団体から後援をいただき、三日間で交流を深めました。第41回は、「社会教育の力で地球を地域が結ぶ」時代を切り拓こう。21世紀は学習と自治の力で、集會テーマでした。

第一全体会の開会式では、来賓として参列いただいた今井県公連会長さんの、この集會への熱き期待が印象深かったでした。

その後、記念シンポジウムは佐渡出身の土田杏村を取り上げ、「土田杏村の二十世紀の学習から二一世紀の学習を觀る」をテーマに行いました。シンポジストは山本修巳氏(真野町。郷土史家)、山野晴雄氏(東京都。白山大学研究会)、桜井俊幸氏(小出町。小出郷文化会館館長)で、司會は大串隆吉社全協委員長(都立大)で進められました。

土田が学びをどうとらえ、それが自由大学にどう影響しているか、その精神が現在どう生かされるか、社会教育関係者は土田の実践に何を学ぶのかが、話し合われました。シンポジウムの最後は「人間として生きることが、即ち自己教育である。自己教育が即ち人間として生きることがあり、人間として生きることが即ち自己教育である」との土田

が朗読して閉じました。続いての基調提案は今集會の柱になるもので、「私たちは自治の力をつけ、競争社会をこえて共生社会へ」と訴えました。

課題別集會は、「公民館、図書館、博物館とNPO」や「なぜ社会教育は教育委員会か」など近々の課題が六つを協議しました。

今集會へ全国26都道府県から参加費を払って800名の参加者(一般市民30%・学生24%・研究者9%・職員37%)がありました。世の中が変になっているからこそ社会教育が大切(十日町市 松崎房子)。「社会教育及び教委を取り巻く最新の動きをキャッチできてよかった。時間不足だった」(柏崎市 品田尚道)。「社会教育の立場で保健婦がみれることを初めて知った。刺激がビリビリ」(白根市役所 青柳等々の声が寄せられました。

現地実行委員は十月六日に総括集會を行いました。特に総括はせず、今集會から新しい風を起こそうと話合いました。

集會関係者各位に感謝し、来年は「めんそうれ沖繩」です。ご一緒しませんか。

『第41回社会教育研究全国集會・越佐集會』の全体の流れ  
越佐集會二〇〇一現地実行委員会

の考えを現  
地実行委員  
の佐々木志  
津子(見附

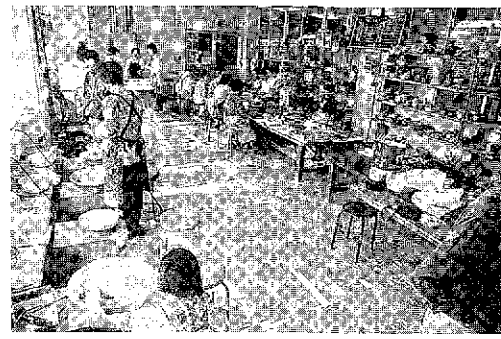
# サークル交流

## プロにならない陶芸家 やきものサークル 炎の会

私たちのサークルは、昭和50年に中央公民館に「やきもの教室」が開講され、修了者の自主運営で結成されました。

会員115名、歳は40代から80代後半まで、5組に分けて各組月2回西潟先生の指導で楽しく創っています。

会の活動として毎年作品展、会員作品をチャリティー販売し売上金を社会福祉等に寄贈し、また各地の窯元の研修旅行、忘年会等全員が会える機会を多く



しています。そして、美術展覧会の工芸部門の大部分が会員作品が占めています。

また、各地域のPTAからの要請で子どもたちの陶芸体験を手伝い、作品を焼いてやると大変喜ばれています。

「皆で楽しく仲よく陶芸を」  
(新津市 炎の会  
会長 木津 繁文 記)

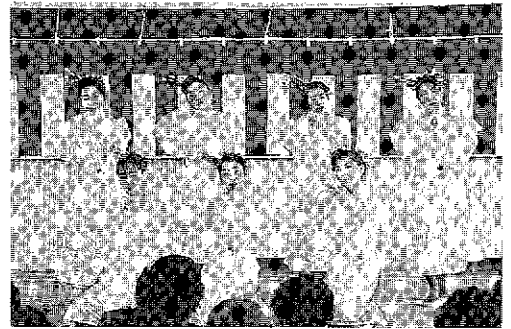


## 私達お年頃の七人娘

小出町 藤扇佳

結成当時は体を動かすことなく、仲間と踊りでもしてみるか」と声をかけ合い集まりました。只今熟女七人の踊りのグループです。

始めた頃は三十代後半で、発表することなど考えずに、体を動かすこととお茶飲みだけが楽しみでした。今では、地域の行事や町の芸能祭に参加するようになりまして。仲間も五



十歳を数年超え、お年頃なのか、みんな肩や膝が痛いと言うようになりました。しかし、先生の若い感性で、演歌やポップスの動きが早い振付にも、七人の気持ちの一つにして頑張っています。発表会の前は練習の回数も増え、風邪などひいていられません。経験を重ねて、やっと周りを見ながらあわせられるようになりました。

いつの間にか、踊りだけでなく、日々の付き合いまでもより良い関係になってきました。八十歳になっても、ずっとこんな付き合いを続け、その時どきのお年頃と一緒に楽しめる仲間でありたいと思っています。

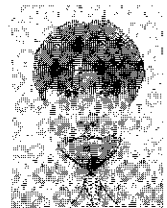
(藤扇佳 代表  
駒形 みずえ 記)

## 五泉市公民館

主事 横山泰巳 さん

平成十二年四月、社会福祉事務所より公民館へ来て二年目、本人には気の毒だが「すでにベテラン」。各種学校や講座の運営、地区公民館の指導や、イベント実施の知恵袋として八面六臂の大活躍です。こう書くと、筋骨隆々エネルギー溢る姿を想像されるのではないのでしょうか。

ところが期待はずれで、いつもニコニコ、ちよっとおっ



とりした感じの好青年です。この風貌のせいか中高年・特に女性ファンが多いようです。愛車は真赤なワーゲンゴルフ、趣味はラジコンカーと意外な一面も、どうもメカ好きなのかも知れません。この特技を生かし、視聴覚機器の操作(下働き)覚への悪い中年へのパソコン指導等、個人的にも感謝感謝です。仕事も人柄もOKの横山さん、唯一の心配は良き伴侶です。でも、最近何やら甘い薫がするような気がするのは私だけでしょうか。  
(五泉市公民館 小樋山 勝記)

## 素顔拝見

## 小須戸町中央公民館

社会教育主事 知野利和 さん

町民展と芸能祭を目前にして超多忙で活気に溢れている中央公民館の中で、ひとときわ明るい笑顔と爽やかなあいさつで来館者を迎えるのが、彼である。

税務課から転じてまだ二年目ながら、同僚の信望は厚く、町民の期待も大きく、教委や公運審の評価は極めて高い。

毎週月曜日の朝会で、前週の反省と今週の計画を明らかにして、各職員の仕事が見えるようにする。そして、担当を越えて協力し合って仕事を進める。



公運審や町民の願いに直ちに反応し実践する。苦情処理の早さは見事でありがたい。防火管理や施設々備の管理に意を配り、研修も熱心である。これからの行政に最も望まれる企画力が抜群で、頼もしい。

酒は弱い、付き合いはいい。周囲に温かい心くばりをしていく感じのいい幹事長、われら中央公民館の自慢の主事である。  
(小須戸町中央公民館長 佐藤 貞夫 記)



図書・資料紹介

最近めずらしく公民館のことを真っ正面から取り上げた書を手にした。エイデル研究所発行の最新刊書(平成十三年九月三十日発行)がそれである。書名は「世界の社会教育施設と公民館 草の根の参加と学び」と題す



るものでA5判五百三ページに及ぶ大冊である。(定価七、四二九円) 著者は、小林文人・佐藤一子の編著で、執筆陣は四十余名、その中には十日町市の田村達夫氏も加わっている。次にその内容の概略を紹介することにす

る。本書は、序論「草の根に広がる世界の社会教育施設」に始まり、第一部「社会教育施設の国際比較」、第二部「公民館の地域史研究」の三部からなっている。序論では、日本の公民館の歴

史的イメージのとらえ直しを課題として掘り下げている。

第一部では、世界の社会教育施設と日本の公民館について、それぞれの国・地域の施設状況について個性的な違いが明らかにされている。ドイツ、フランス、イギリス、イタリア、スペインなどのヨーロッパの民衆大衆の伝統や、中国、台湾、アメリカなどアジア・アフリカ地域の社会教育施設等と、わが国の公民館の性格やあり方との対比がなされていて興味深い。

新刊「世界の教育施設と公民館」

草の根の参加と学び

小林文人・佐藤一子編

章と補論によって組み立てられている。まず、源流としての初期公民館の地域づくりから始まり、農村型公民館から都市型公民館への展開、自治体としての公民館体制づくり等の歴史的推移の変遷についての検証がなされたり、公民館の歴史的な未来づくりなどについて述べている。

特に実践の具体的な事例が取り上げられており、先人の真摯な取組みとそれによる理論構築の確かさが、これからの公民館の進むべき道に大きな示唆を与え

ている。とりわけ、第三章が青年学級・校区公民館・自治公民館について記されているのが筆者の関心をそそった。

青年学級の項は、本県十日町市公民館の五十年にわたる学級開設の歴史の足取りを記したもので、先に触れたように執筆は筆者の畏友田村達夫氏によるもので、そこには、単なる継続の歩みのみでなく、地域の課題の取り上げかたの適切さ、連絡と続く職員交替時の引継の確かさなどが読み取れ、今日失われ

平成13年12月の催物のご案内

- 11月1日(祝)～1月30日(祝) 映像や実験装置などにより、物質の性質や原子の構造、核分裂について紹介します。
12月8日(由)～2月24日(由) プラネタリウムではよくわかる星図も、実際の夜空では見つけられない。みなさんともそん気になっていませんか。今回の番組では、アニメによる物語の中で美しい冬の星空を紹介するとともに、星座見出しの使い方や利用の仕方について解説します。
12月2日(由)までは秋番組を放映しています。
また、12月4日(由)から12月7日(由)まで、番組入替及び保存点検のためプラネタリウムの放映はご休まず。12月8日(由)から新番組を放映します。
12月23日(由)及び12月24日(由)
12月30日(由)～1月14日(由)
12月13日(由)～14日(由) 15:00～15:45
(内容) 満天の星空の下で、歌、アコーディオン、エレクトーンの生演奏が楽しめます。
入館料のほかに、大人200円・小中学生100円のチケットの購入が必要です。
各回先着210名(チケット当日販売)。
※ 幼児は無料チケットが必要です。ただし、3才以下の幼児はご遠慮願います。
12月23日(由)及び12月24日(由)の午後後、プラネタリウムの投影はお休みです。

料金
項目 大人 小・中学生
入館料 510円 310円
入館料+プラネタリウム料 710円 410円
○幼児、障害者手帳をお持ちの方は無料です。
○プラネタリウムを視察される場合は入館料が必要です。
○20名以上(有料入館者)の団体は割引制度があります。
12月および年末年始の休館日は、3日(由)、10日(由)、17日(由)、18日(由)、25日(由)および28日(由)～1月4日(由)です。
※ 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日)の定休日のほかに、設備点検整備のための休館日があります。(12月18日(由)です。)
お問い合わせ先
電話 (025) 283 3331 FAX (025) 283-3336
Eメール nsm@coral.ocn.ne.jp
ホームページ http://www.lalanel.gr.jp/nsm/index.html
〒950-0948 新潟市女池南3丁目1番1号
新潟県立自然科学館

あとながき

◇吉報が入って参りました。第35回欧州社会教育事情視察団員に本県から2名の方が参加されることとなりました。十日町市公民館宇都宮正人副館長と、もうお一人は大島村公民館内山昭子主事です。今年で4年連続本

県からの参加です。
◇平成14年度開催予定の、第43回関プロ大会の準備に本格始動することとなりました。新潟市公連、二市北浦公連の全面支援をいただくことになりましたが、よろしく願います。(鈴木記)

表紙解説

「個性と創造性をはぐくむ白根学習館」

公民館、多目的ホール、図書館、理科教育センター機能を持つ複合施設として昨年6月に開館。(白根市中央公民館)

(顧問 上村捨二郎 評)

発行所 新潟県公民館連合会
〒951-8053
新潟市川端町2-9 県林業会館内
TEL・FAX (025)224-6073
発行人 会長 今井昭友
編集人 事務局 鈴木友夫
印刷 第一印刷所
〒950-8724
新潟市和合町2-4-18
TEL(025)285-7161 FAX(025)282-1776
【定価1部150円 年共1,800円】